

考古学のことならオプカルにおまかせください!



令和7～8年度特集展

新発見速報展2026

New Discovery Breaking Exhibition 2026

大分県立埋蔵文化財センター
令和7～8年度特集展
「新発見速報展2026」

解説資料

1月20日～5月24日

えみし

「蝦夷」のあしあと



なぐさだい

名草台遺跡(玖珠町)で新発見

はじめに

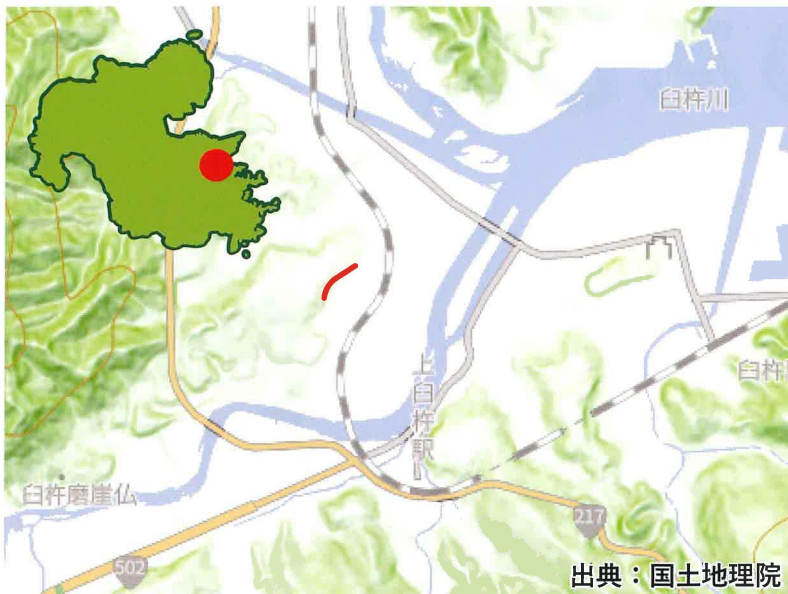
大分県立埋蔵文化財センターでは、国や県の事業に伴う発掘調査を実施しています。本特集展では、最近発掘調査や報告書作成を行った遺跡の調査成果について紹介します。展示を通して、身近な「発見」を知っていただき、地域の歴史に親しんでいただけたら幸いです。

主催：大分県立埋蔵文化財センター

後援：大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送

とむるいしちやばあと 戸室石丁場跡

調査年度：令和元年度～令和7年度
 調査原因：双葉南地区急傾斜地崩壊対策事業
 遺跡の年代：近世～近代
 遺跡の所在地：白杵市大字戸室
 字久保・浄光寺



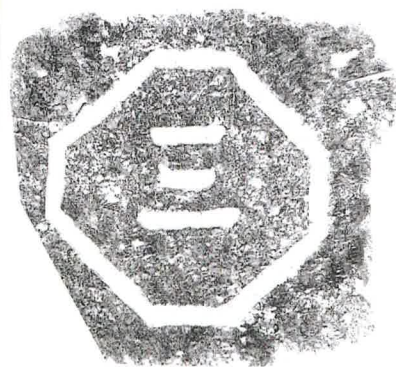
戸室石丁場跡は、白杵市の水ヶ城山から東へ伸びる台地の南面に形成された崖面にある。石切場としてはほとんど知られておらず、令和元年、現地確認により崖面に白杵藩家紋の刻印が発見され、白杵藩の公的な石切場とみられる重要な遺跡であると判明した。令和7年度までに6次にわたる調査が行われており、家紋や年号、人名の刻印・刻銘が多数発見されている。

これまで、白杵藩の石丁場は記録や伝承が乏しく、その存在はほとんど知られてこなかった。今回の調査により、白杵藩主稲葉家の家紋「隅切折敷三字文」の刻印や「文化十二年」などの刻銘が発見されたことで、採石された年代が分かる白杵藩の公的な石切場、という重要な遺跡であることが判明した。また、崖面には石を切り出すためのノミ跡や矢穴が残されており、実際に採石が行われていた痕跡があった。

令和7年度までの調査で確認された年代は、「延寶六年」(1678)や「文化十二年」(1815)、「明治二年」(1869)であることから、17世紀後半から19世紀後半にかけて採石が行われていたと考えられる。



戸室石丁場跡第1次調査区



刻印「隅切折敷三字文」拓本



第3次調査では、採石時期とともに、戸室村の世話人や戸室村・市浜村の小庄屋、石工などの人名が記されていることが確認された。このことから、採石は村が中心となって行っていたと考えられる。

戸室石丁場跡は、臼杵藩による採石の痕跡や年号・人名の具体的な刻銘など、臼杵の歴史を解明するうえで重要な遺跡である。一方で、「急傾斜地崩壊危険区域」に指定されている危険な崖面で、早急な対策が不可欠な場所でもある。遺跡の現状保存については、何度も臼杵土木事務所と協議を行い、災害対策工事を実施はするものの、刻印や刻銘のある箇所は不施工とすることで、可能な限りの遺跡の現地保存が図られた。

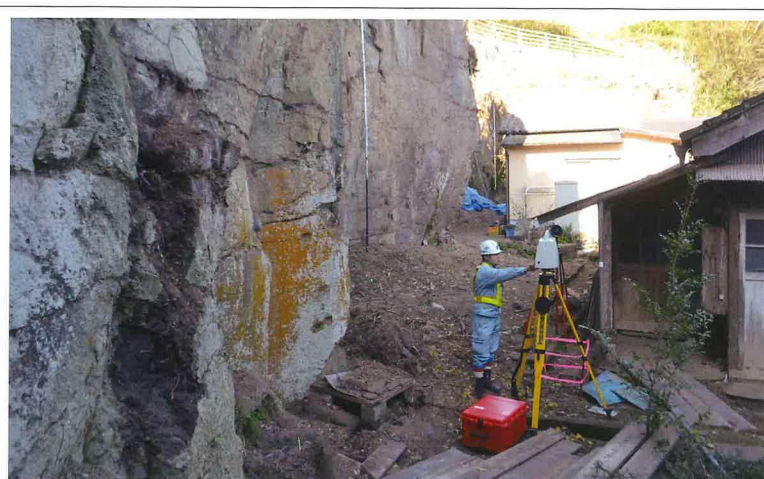


刻銘「文化十二年 (1815)」



刻銘「延寶六年 (1678)」

石切場は廃藩置県によりその役目を終えたとみられ、その後宅地化が進行した。遺跡から出土した陶磁器などの日常陶器はそのことを物語っている。



三次元測量調査実施状況



丸山焼土師器焔炉



第1次調査区三次元測量図

いせき セハタ遺跡

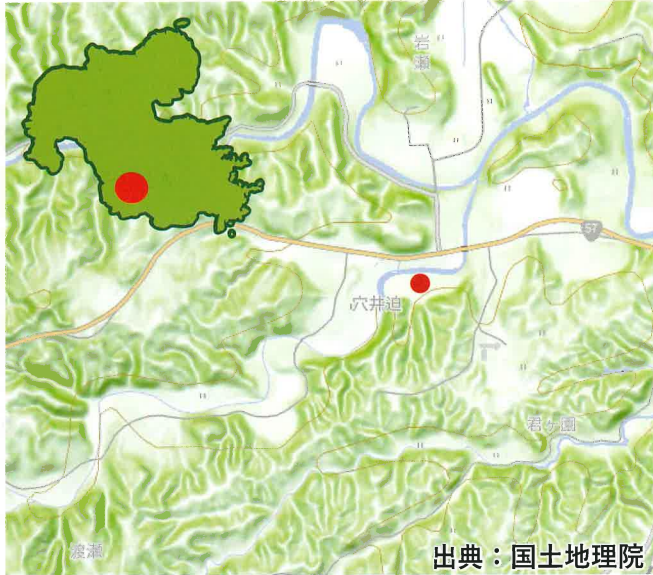
調査年度：令和5年度～令和7年度

調査原因：中九州横断道路(竹田阿蘇道路)建設

遺跡の年代：弥生時代後期後半～古墳時代前期前半

/ 戦国期～近世初頭(15～17世紀初頭)

遺跡の所在地：大分県竹田市君ヶ園



出典：国土地理院

セハタ遺跡は、竹田市を流れる滝水川右岸の河岸段丘上に立地する。これまで遺跡の存在は知られていなかったが、事業に伴う試掘調査で遺跡が発見された。令和7年までに3次にわたる発掘調査が行われており、弥生時代後期～古墳時代前期および中世(14～16世紀)の集落遺跡が発見された。近隣で行われた岩瀬遺跡(令和7年度調査)の発掘調査と併せて、注目される遺跡である。



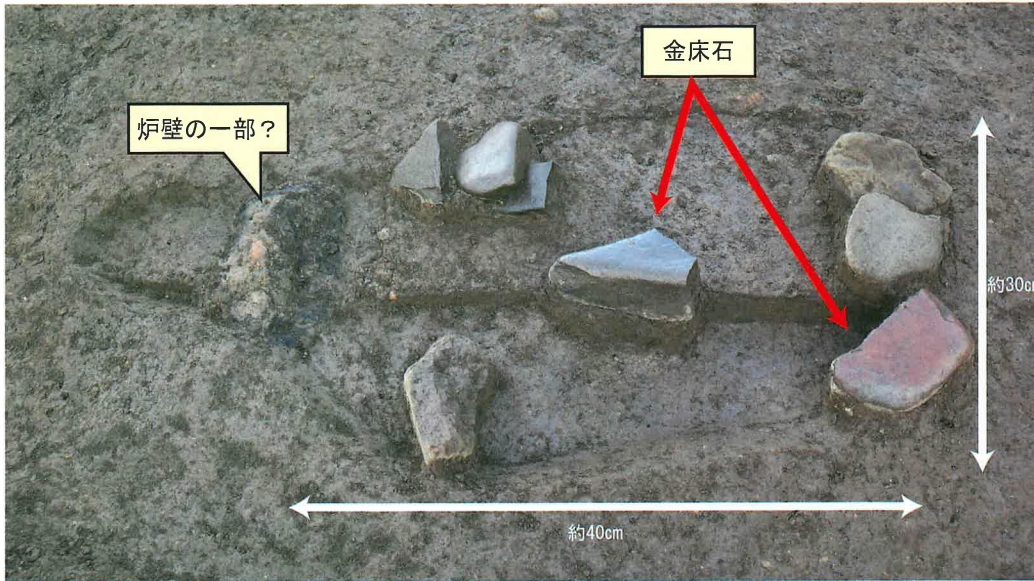
セハタ遺跡第3次調査空中写真

第2次調査では、「^{こうじじょうとつたいもんかめ}工字状突帯文甕」と呼ばれる弥生時代後期の甕が横倒しに埋められた状態で出土している。甕は通常煮炊きに使われるものであるため、集落内で、破片が出土することが多い。

しかし、この甕は煮炊きに使われた痕跡があるものの、ほぼ完形であり、竪穴建物が点在するエリアとは離れたところで見つまっている。こういった状況から、この甕は小児用の^{かめかん}甕棺として埋葬されたものだと考えられる。



セハタ遺跡小児甕棺出土状況



セハタ遺跡鍛冶炉半截状況

第2次調査では、大量の鉄滓^{てつさい}が出土している。鉄滓とは、製鉄を行った際に生じる副産物である。鉄滓を廃棄した土坑、さらには^{かなどこいし}金床石を持った^{かじ}鍛冶^ろ炉が発見されていることなどから、中世に鍛冶が行われていたことが

明らかになった。また、鉄製品もいくつか出土しており、その中には甲冑の部品である「小札」とよばれる鉄製品も含まれている。



セハタ遺跡出土小札

仕事の合間にほっと一息、鍛冶職人も茶の湯を楽しんでいたかも。そんな様子うかがわせる遺物が出土している。

「志野焼四方向付(しのやきよほうむこうづけ)」と呼ばれる陶器片である。志野焼は^{みの}美濃(岐阜県)で焼成された陶器で、日常雑器としても使われるが、どちらかというとなり茶器・茶道具として使用されることが多いものだそう。ほかにも中国産^{てんもくわんせいじもんこうろ}天目碗、青磁^{せいじ}間香炉、朝鮮王朝産^{かいせいさきわん}灰青沙器碗など、海外製の陶磁器も出土している。小さな破片から、当時の人々の趣味までわかってしまうこともある。



志野焼四方向付

けんしゅちくじょういせき 県種畜場遺跡

調査年度：令和6年度
調査原因：畜産研究部施設整備事業
遺跡の年代：古墳時代中期以降
遺跡の所在地：竹田市久住町大字久住



県種畜場遺跡は、竹田市域を流れる平木川と田町川に挟まれた台地上に立地しており、現在は大分県農林水産研究指導センター畜産研究部の敷地となっている。発掘調査では、多くの柱穴や土坑が発見されているが、遺物の出土は少量であった。

出土した遺物が少ないことから、人が生活していた空間であるとは考えづらい。狩猟場あるいは何らかの生産空間であった可能性が考えられる。久住は古来、高原地域の草地を利用した牧が開かれ、馬の生産が行われていた土地であることから、この遺跡も馬匹生産に関わる遺跡の可能性が考えられる。



推定：逆茂木痕

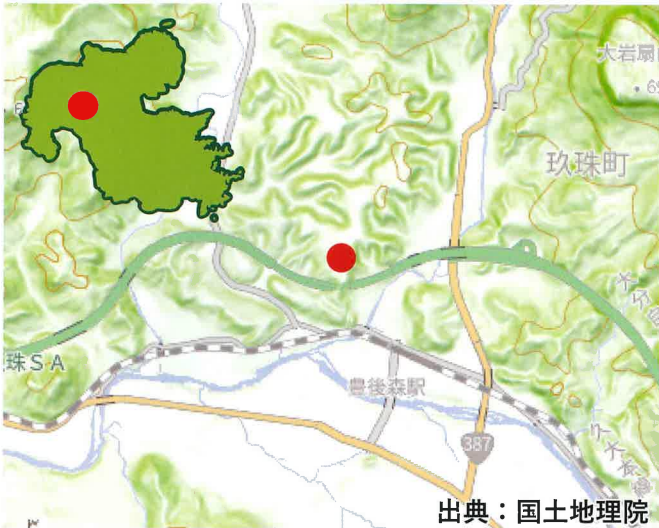
遺構の中には、^{おと}陥^{あな}し穴状遺構が発見された。長径約 2.2m、深さ 50cm程の規模で、底部には^{さかもぎ}逆茂木の痕跡が確認された。



県種畜場遺跡空中写真

なぐさだい いせき 名草台遺跡

調査年度：令和6年度～令和7年度
 調査原因：陸上自衛隊玖珠駐屯地建設事業
 遺跡の年代：縄文時代～古代
 遺跡の所在地：玖珠郡玖珠町大字帆足



出典：国土地理院

名草台遺跡は、玖珠盆地を横断する玖珠川支流の森川左岸の名草台と呼ばれる台地上に位置する。名草台には陸上自衛隊玖珠駐屯地が所在しており、遺跡はその南端に広がっている。平成18年にも玖珠町教育委員会が発掘調査を行っており、弥生時代～古墳時代とみられる集落が発見されている。令和6年度および令和7年度に、玖珠駐屯地内の施設建設事業に伴い本調査を行い、縄文～弥生時代および古代の集落が発見されている。

令和6年度調査では、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、そのほか多数の土坑、ピットが確認できた。特筆すべき遺構として、竪穴建物跡には本建物に伴うカマドの痕跡が3基確認された。多くの竪穴建物は、カマドは1基しか持たない。それが3基並んで確認されるのは大変珍しい事例である。カマドの袖は壊されており構造は不明であったが、長い煙道および焚き出し口が残存していた。そのうち1基には煙道に土器が置かれており、カマド封じの儀式を行ったものとみられる。出土した土器の特徴から、この竪穴建物の廃絶時期は8世紀後半～9世紀前半と推定される。そのほかの遺構においては出土遺物がわずかであり、推定は難しいが、弥生時代および古代を中心とする遺跡と考えられる。



名草台遺跡調査区全景



煙道における土器出土状況



竪穴建物から出土した土器には、在地のものと系統が異なる珍しい土師器が多く含まれていた。主な特徴として、坏はロクロ(回転台)を用いずに手で持って成形・表面調整していること、内側にススを付着させて黒くし、表面を磨いているものが多いことがあげられる。甕は口縁部の下に段をもち、内外面の調整が在地のものと異なる。また、高台のついた甕のような土器など、在地では見られないような土器が確認された。



名草台遺跡から出土した東北系土器

以上の特徴は、なんと古代東北の土器と合致する。また、煙道の長いカマドも古代東北でよくみられる。つまり、この建物には古代東北に系譜を持つ人がいたということである。これは大分県内で確認された初めての事例である。

では、なぜ名草台に古代の東北の人々「蝦夷」がいたのか。『延喜式』によると、奈良時代から平安時代にかけて、戦争の末服属した蝦夷たちは「俘囚」と呼ばれ、全国に移住させられていた。その中に豊後国の記載もあることから、名草台遺跡で、この俘囚が生活していた可能性が考えられる。今回の古代東北系資料の発見は、大分の古代史を明らかにするうえで非常に重要な成果であるといえる。



煙道断ち割り状況

企画展

おおいた鉱物資源ものがたり

令和8年

2月10日(火)

～5月24日(日)

